

# ①科学者の目

発達が気になる子どもと接していると、時々「なんでこんなことをするんだろう?」「どうして?」という疑問が浮かぶことがあります。子どもにとってははっきりとした理由があることでも、それがなかなか伝わらないことがあるのです。

私たちは、「どうしてなんだろう」と悩み続けた結果、「この子はどうせ〇〇やねん・・・仕方ないわ」とついつい『自己完結』してしまいがちです。『自己完結』、つまり諦めてしまうこと、そうすると子どもを助ける具体的な支援方法は浮かんでできません。そんなことにならないためにも、ここでは、皆さんに、発達が気になるお子さんに接する時のコツをお教えします。

大切なことは、視点を変えること、一歩引いて子どもを見ることです。子どもの気になる行動を「**具体的**」に捉えてみましょう。具体的に捉えることが、具体的な支援につながります。

例えば、「この子は、甘えん坊で困ってるんです」と相談を受けた場合を想像してみてください。「甘えん坊」とは具体的にどのようなことを指しているのでしょうか? 「毎朝、お部屋に入れず“お母さーん!”と言いながら泣いている」「先生のひざにすぐにのる」など、様々な行動が当てはまります。

このように行動を『具体的』に捉えることで、子どもの姿が見えるようになります。子どもの姿が見えるようになると、対応を考えやすくなります。「甘えん坊」ではなく、「毎日、お部屋に入れず“お母さーん!”と言いながら泣いている」と言われた方が、「朝、早目に来るようにして人数が少ないうちにお母さんと一緒に入る」などの具体的な対応を考えることができるのです。

×具体的ではない!

- 「遊びが広がらない」 → 「1時間ブロックを並べ続けてた」
- 「思いを受け止める」 → 「遊びを自分で止めるまで横に付いて待つ」
- 「すぐに調子にのる」 → 「電車に乗ると大声を出す」  
「好きなおもちゃを見ると走り回る」

◎具体的!



子どもの行動を、具体的に観察する習慣を身につけましょう。目指せ! 科学者です。



**ルール①: 子どもの行動は「具体的」に見る**

